

教育 DX に向けた本格実証研究を 2022 年 12 月より開始

文部科学省の「次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進事業」採択のお知らせ

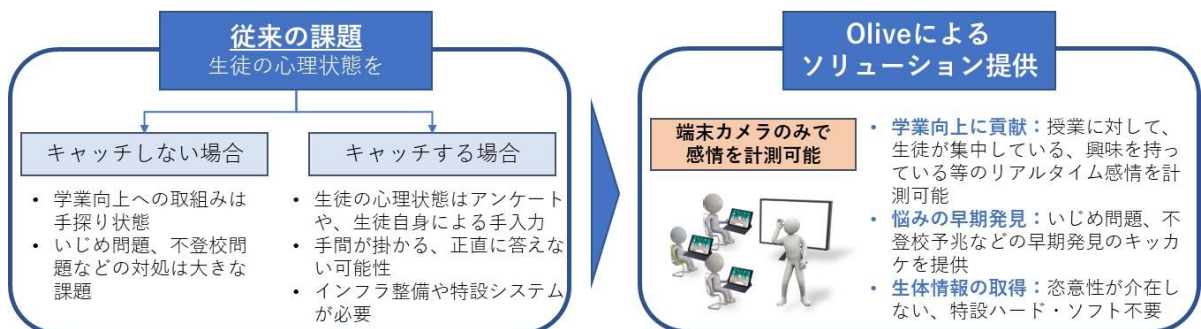
Olive 株式会社（以下、「Olive」）の提供する生体情報による「感情の可視化」技術が文部科学省の令和 4 年度「次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進事業」に採択されましたので、下記の通りお知らせいたします。

本実証研究の目的

「GIGA スクール構想」による「1 人 1 台端末」の活用が進む中、目指すべき教育 DX の実現に向けて、学習モデルの構造を質的に向上し、新たな政策課題に対応するため、教育現場で活用し得る先端技術や教育データを効果的に利活用するための実証となります。

本研究は、東近江市教育委員会と連携し、東近江市立能登川東小学校（滋賀県東近江市小川町 30 北崎裕章校長）にて行われています。

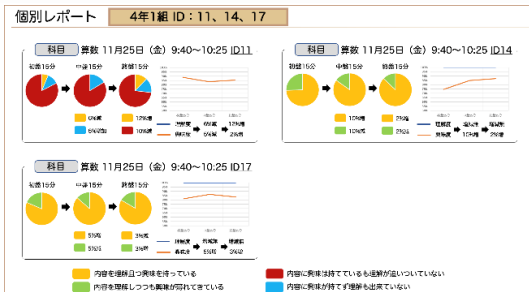
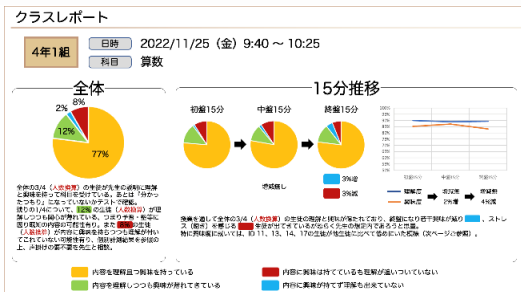
全国的に GIGA スクール端末を活用した取り組みが進みつつありますが、児童生徒の本質的な状況を一人一人把握することは未だに困難です。今回の東近江市における実証研究では、Olive として、GIGA 端末搭載のカメラをセンサーとして利用し、児童生徒の生体反応から感情推定を行い、授業中における集中度や興味度などを教員に分かり易くリアルタイムに提供することで、教員による授業改善や、従来からの課題である「いじめ問題」や「不登校問題」の未然防止・早期発見などに活用頂きます。



Oliveによる提供サービス

Oliveがクラウドから提供する感情可視化プラットフォームLa CauseをGIGA端末のウェブで立ち上げ、GIGA端末搭載のカメラより児童生徒の生体反応（脈波・瞳孔の状態・加速度など、科学的に心理状態を反映すると証明されている情報）を読み取り、リアルタイム感情の可視化が可能になります。感情推定に用いる情報はあくまでも「生体反応」や「体動」であり、「表情」や「音声」などの情報は読み取りません。また、カメラによる自動読み取りであるため、非接触であるが故にストレスなく児童生徒の心理状況を長期的に把握することが可能となります。

リアルタイム計測とは別に、感情レポートを クラス単位・個人単位で教員に提供



La Causeを起動している 授業風景の抜粋



【教員の方々からのコメントを一部抜粋】

- 授業中、リアルタイムで生徒達の興味度・集中度・ワクワク度など可視化された感情が見れるのは画期的
- 先生として生徒の表情だけを見ていると「飽きていない・頑張ってくれている」と見えるのに、本当は集中がもう限界だと分かり、手を変え品を変えに役立てられている
- 先生がノーマークの生徒が実は「悩みを抱えている」ことも判明し、付加価値が高いと感じた

今回の実証研究にあたっては、日本の教育の DX 化推進を研究する日本教育 DX 研究会（会長：藤村裕一 鳴門教育大学教員養成 DX 推進機構長）と知見を共有し、テクノホライゾン株式会社による取りまとめにより進められました。

文部科学省 令和4年度 次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進事業

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416148.htm

Olive 株式会社について

Olive は人の生体反応から「感情の可視化」とその「利活用」を展開しており、独自の AI アルゴリズムによってクラウド上で運用しているプラットフォーム La Cause を通じて感情推定のアウトプットを提供しています。Olive では現在、複数の市場・業種・顧客に渡ってサービス提供を行っており、可視化対象は喜怒哀楽を始め、快・不快、集中・覚醒、眠気、興味、関心など多岐に渡ります。この画期的なサービスを通じて、顧客企業のビジネス活動で「感情 DX」という新たな touch point の創出を可能にするのみならず、健康経営や教育改革、高齢化問題、ウィズコロナなど社会課題への対応策としても活用頂いています。

【問い合わせ先】 Olive 株式会社 info@olive.co.jp